

福岡共同 公文書館だより vol.04

Fukuoka Communal Archives

平成26年3月
March 2014



平成25年度を振り返って

TOPICS／平成25年度 企画展報告

- 福岡共同公文書館 公開講座レポート 2ページ
- 活動報告／評価選別会議実施状況 3ページ
- インターンシップを終えて 4ページ
- 公文書紹介 5ページ
- 6～7ページ

施設案内

施設使用料金

施設の使用ができます

	収容人員	面積	金額(1時間につき)
会議室	16名	58㎡	380円
研修室	90名	171㎡	1,130円

※プロジェクターや音響装置等を使用する場合は、別途使用料が必要となります。なお、消費税改正により上記料金や付属装置代の料金は変動します。施設利用を御希望の方は当館までお問い合わせください。

複写サービス

複写もできます

白黒	1枚 10円(A3判まで)
カラー	1枚 30円(A3判まで)
マイクロフィルムからの印刷	1枚 10円(A3判まで)

※ただし、特定歴史公文書については、福岡県立公文書館条例及び福岡県市町村公文書館条例により、個人情報などが記載された箇所は複写できないことがあります。

利用上の注意点

閲覧室に入室の際は、貴重品以外の物はロッカーにお入れください。(使用後は100円返金されます。)

このような時は ご相談ください

- お住まいの地域で行政が関わった歴史を知りたい。
- 調べたい内容の資料が当館へ移管されたか知りたい。
- 展示物や閲覧室にある資料を撮影したい場合。

その他、ご質問等があれば、お気軽にお寄せください。



会議室



研修室



閲覧室



展示室(常設展)

編集後記

いよいよ年度末を迎えると同時に、私事ではありますが、公文書館業務に携わり、1年が経過し、派遣元自治体へ戻る時期が近づいてまいりました。最近、事業の中で公文書に実際に読む機会があり、私が生まれる以前のもも多く、過去の事業ではこのような業務があったのだという事実に触れる貴重な体験をしています。行政職員として、気が引き締まる想いです。そして、より県民の皆様にも知っていただき、歴史に触れる機会があるということを知っていただきたいという想いが強くなりました。

公開講座として和綴じ講座や公文書館講座を開講しましたが、和綴じ講座では実際に和本を作成しました。この講座がきっかけとなり、もっと当館を身近に感じていただけたらと思います。

今年度は当館事業の一つである、企画展示においても、1000人を超える来館者があったことは、とても嬉しく思います。しかし、これに満足せず、より多くの方に公文書に触れていただく機会をもっていただくために、少しでも興味を持っていただけるような取組を行っていただけるよう、次年度にバトンタッチをしたいです。1年間、ありがとうございました。(杉谷)



交通アクセス

- JR二日市駅より徒歩13分または西鉄バス警察署前より徒歩1分
- 西鉄二日市駅下車、西鉄バス警察署前バス停より徒歩1分
- 九州自動車道「筑紫野インター」より車で約5分

福岡共同公文書館

〒818-0041 福岡県筑紫野市上古賀1丁目3番1号

お問い合わせ:092-919-6166

Mail:kobunsyokan@pref.fukuoka.lg.jp

ホームページ: http://kobunsyokan.pref.fukuoka.lg.jp/



福岡共同公文書館には宝くじの収益金が活用されています。



公開講座レポート

当館では利用者の方々を対象にした、公文書館ならではの講座を開講しています。
今回は、2月に開催された二つの講座の様子を御紹介します。

和綴じ講座

平成26年2月15日(土)、福岡女子短期大学の准教授である倉本優子氏をお招きして、当館研修室にて和綴じ講座を開講しました。

講座では、「和本とは？」から始まり、和本の種類や和本の歴史を御説明いただき、実技を行いました。実技では、基本的な四つ目綴じから千代紙を選んで簡単和綴じ(四つ目綴じの行程を一部省略した綴じ方)を行いました。

参加者のみなさんの真剣に取り組む姿、「家でもう一度作ってみたい」「新たな出会いに感謝。」という声を聞くことができ、当館もとても嬉しく思います。

事前申込みが定員を超える結果となり、当館としても今後さらに検討していきたいと考えています。



公文書館講座

平成26年2月19日(水)、公文書館講座を行いました。

「公文書館ってどんなところなのだろう。」という来館者の皆様の声にお答えし、開講しました。講座では、当館の設立の経緯や位置付けを御説明し、当館を案内しました。

講座終了後のアンケートでは、「昔の資料で欠損している部分の修繕は大変だと思いますが、頑張ってください。」「大変勉強になりました。」という御意見が寄せられました。

普段見ることのできない当館の作業部屋を見学し、少しでも当館を身近に感じていただけたらと思います。今回、寄せられた御意見にお答えできるよう、今後も公文書の保存について取組んでいきたいと思っています。



平成25年度 企画展報告

当館では、平成25年度、2つの大きな企画展を開催しました。開催に当たり、関係機関の御協力により、多くの県民の方々へ当館所蔵の公文書や行政資料を御覧いただき、第3回企画展は現在も開催中です。今後も様々なテーマを取上げ、展示室を運営してまいりますので、皆様の御観覧、お待ちしております。

第2回企画展

「公文書でひもとく福岡県の石炭産業」

「山本作兵衛作品とともに」

第2回企画展では、かつて国内有数の産炭地を有していた福岡県との関わりをテーマとして、当館所蔵の公文書や行政資料の他に、炭鉱絵師であった山本作兵衛氏の未登録原画や複製物を展示しました。また、明治以降、福岡県で隆盛を極めた石炭産業について、県内各地にある炭鉱の特徴、炭鉱経営者、炭鉱労働者の生活などを題材にしたパネル展示も行いました。観覧者アンケートでは、「初めて来館したが、とても勉強になった。」「山本作兵衛氏の絵画を筑紫野市で見ることができてよかった。」等の御意見がありました。さらに、企画展と関連した講演会や講座も開催し、合計80名ほどの参加がありました。観覧された方の中には、当館に初めて来館したという方が多く見受けられましたが、企画展を開催したことで当館の役割を知っていただくきっかけとなったことを嬉しく思います。



第3回企画展

「時代とともに発展した福岡県の交通」

「鉄道軌跡を中心に」

当館では、今年1月7日(火)から3月23日(日)まで、第3回企画展を開催しました。本企画展では、第2回企画展と関連して福岡県内の鉄道の歴史や港湾、道路、航空といった4つのテーマに分け、当館に所蔵している公文書や行政資料、歴史資料を基に紹介しました。また、県が発行している「グラフふくおか」から見る福岡県の交通史ということで、当時の関連記事も展示し、開かれた交通網がどのように広報されたかを見ていただきました。観覧者の中には、懐かしい想いをされた方もあったと思います。観覧者アンケートでは、「鉄道や道路の発達の歴史が面白く、参考になった。」等の御意見がありました。



常設展示のお知らせ

当館では、4月1日(火)より常設展示を行います。

内容は、福岡県の成り立ちや市町村合併を取り上げ、当館所蔵の公文書や行政資料をもとに紐解きます。福岡県の歴史に触れてみませんか。観覧は無料です。

インターンシップを終えて…

I N T E R N S H I P

5日間という短い間でしたが、職員のみなさんが大変親しみやすい方ばかりで、初日から何かと気にかけていただき、文書の選別やデータ入力、配架や利用者の方々との交流などあらゆる業務を経験することができました。どの作業も職員の方に丁寧な教わりながら行いましたが、中でも私が難しいと感じた業務は、文書の選別作業です。搬入された文書を丁寧に1ページずつ目を通し、その文書がどういったものであるのか、今後どのような意味をもつかなどを公文

公 文書館は過去の行政資料や機密文書を保管している施設であるというのが、私がインターンシップとして研修を受ける前に抱いていたイメージです。私は日本史が好きなので、歴史に関する文書に携わる業務を経験できるということに興味をもち、このたび公文書館での研修に応募しました。

平成26年2月17～21日、当館において、インターンシップ研修を実施しました。その時に感じたことや学んだことを綴っていただきました。

書保管に関する規定と照らし合わせながら、公文書館で保管するか否かを決めます。実際に経験してみても、この業務をこなすためには様式や内容から種類を判別するだけでなく、規定に関しても把握する必要があります。公文書館での業務は丁寧な事務作業だけでなく、住民のみなさんにより幅広く利用していただくための催し物の企画や、体力を使う配架作業や正確さが必要とされる選別作業など、想像以上に多岐にわたるものです。今回の研修を経て、公文書館へのイメージが変わったことが主に2つあります。1つ目は、実際に利用するために職員のみなさんも多くの手順を期限内にこなしているということ、もう1つは私たち一人ひとりの暮らしや住んでいる地域の政策に、公文書が大きく関わっているということです。そしてその二つには、多くの方に公文書館を活用していただきたい、という熱意が込められていました。



期間中の研修の様子

活 動 報 告

平成25年	
12月 5日	太宰府市中堅職員研修【研修及び施設見学(29名)】
12月10日	FBS福岡放送「ふくおか新発見」撮影(1/25放送分)
12月18日	「情報基盤としてのアーカイブズ制度を構築する戦略的研究」プロジェクトチーム【施設見学(5名)】
平成26年	
1月 7日	第3回企画展「時代とともに発展した福岡県の交通～鉄道軌跡を中心に～」開催(～3/23)
1月10日	西日本新聞社、第3回企画展「時代とともに発展した福岡県の交通～鉄道軌跡を中心に～」について取材を受ける。
1月10日	沖縄県【施設見学(2名)】
1月14日	消防訓練
1月16日	西日本新聞朝刊に、第3回企画展「時代とともに発展した福岡県の交通～鉄道軌跡を中心に～」が掲載される。
1月16日	参議院事務局庶務部文書課【調査(2名)】
1月17日	参議院法制局第一部第二課【調査(3名)】
1月20日	福岡県特定歴史公文書利用審査会兼福岡県自治振興組合特定歴史公文書利用審査会開催
1月23日	筑豊地区県立学校事務職員研修【研修及び施設見学(12名)】
1月24日	筑前町文書担当職員等研修【研修及び施設見学(18名)】
1月25日	FBS福岡放送の「ふくおか新発見」で、第3回企画展が紹介される(放送時間16:55～17:00)。
1月28日	筑紫野市教育部生涯学習課【施設見学(2名)】
1月29日	福岡県市町村文書事務担当課長会議開催(60名)
1月30日	高知県総務部文書情報課【施設見学(2名)】
1月30日	公文書館を応援する会【施設見学(3名)】
1月31日	ケーブルステーション福岡(CFS)の取材、撮影を受ける。
1月31日	CFSで第3回企画展案内放送(19:00～、21:00～、23:00～)
2月 1日	CFSで第3回企画展案内放送(3:00～、7:00～、11:00～、15:00～)
2月 4日	平成25年度県庁活性化フォーラムで平成25年度職域表彰(福岡県知事表彰)を受ける。
2月 5日	鹿児島市公文書管理検討委員施設見学【(1名)】
2月 5日	CFSで公開講座告知放送(19:00～、21:00～、23:00～)
2月 6日	CFSで公開講座告知放送(3:00～、7:00～、11:00～、15:00～)
2月 7日	筑波大学【施設見学(1名)】
2月13日	福岡県議会総務企画地域振興委員会察【視察(15名)】
2月15日	和綴り講座開催(10名)
2月17日	インターンシップ研修生受入(～2/21、1名)
2月18日	筑紫野市総務部管財課【施設見学(2名)】
2月19日	公文書館講座開催(10名)
2月20日	筑紫野市建設部維持管理課【施設見学(2名)】
2月26日	「総合的な学習」職場インタビュー受入(天拝中学校1年生、4名)
2月27日	「総合的な学習」職場体験受入(天拝中学校2年生、4名)



▲参議院法制局第一部第二課の視察



▲筑前町文書担当職員等研修



▲FBS 放送福岡放送の「ふくおか新発見」取材風景



▲福岡県議会総務企画地域振興委員会の視察

評価選別会議実施状況

選別会議…自治体から1次選別を経て搬入された公文書を評価選別基準により2次選別を行います。2次選別により、当館へ移管しないこととなった公文書については、搬入元自治体に原則として返却します。

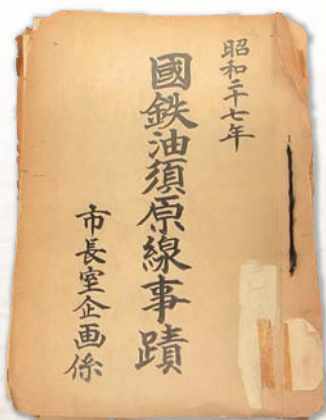
平成25年12月から平成26年2月までの分▶

須恵町	小郡市	うきは市	大川市
小竹町	水巻町	中間市	上毛町
久留米市	行橋市	みやま市	みやこ町
築上町	添田町	古賀市	筑後市

公文書 紹介

幻の油須原線

当館で利用の多い資料や、おすすめの資料をご紹介します。
資料が作られた背景を読み解くと、その時の関係者の思いや、時代の情勢が見えてきます！



▲昭和27年 国鉄油須原線事蹟
(昭和32年度完結) 嘉麻市より移管

豊前川崎間が一部開通し、残りの線路も大部分が敷設されましたが、鉄道が全通することのなかった「幻の油須原線」と言われる鉄道路線に関する公文書を御紹介します。

福岡県における鉄道軌道の敷設は、民間により始まったため、県内自治体にはその建設に係る土地移譲や路線増設の陳情書、また自治体作成の地域振興計画書の一部と

して保存されているだけです。これらの公文書の中から「鉄道関係」文書を探すことは、容易ではありません。このような現状の中でも、「矢部線」「佐賀線」「油須原線」「幸袋線」など、鉄道の路線名を冠した公文書の綴りが現在12冊ほど当館に移管されています。これらの公文書や路線に関わる歴史を調べてみると、地域の時代的必要性を反映して建設されたにも関わらず、現在では廃止されてしまった路線の事蹟であることがわかります。

筑豊の石炭は、藩政時代から川舩(かわひらた)と呼ばれる舟で遠賀川を利用して運ばれていましたが、明治22年

(1889)石炭輸送のため筑豊興業鉄道会社が創立されたことを始まりに、幾多の鉄道会社が設立され路線が伸長されていきました。明治40年(1907)筑豊一帯の鉄道を吸収合併した九州鉄道が国有化された後は、国家的規模の石炭輸送体制となり、筑豊炭田には貨物専用線が増設され、運炭支線が毛細血管のように張りめぐらされていきました。しかし、昭和30年代に始まる石炭から石油へのエネルギー転換政策により、筑豊の炭坑では閉山が相次ぎ、運炭量も減少していき

ました。
同時に、昭和55年(1980)、乗客数や貨物輸送量などいく

つかの基準を満たさない赤字ローカル線の廃止、バスへの転換などを盛り込んだ「国鉄再建法」が公布され、筑豊炭田地域の多くの路線が平成元年までに廃止されています。

●『昭和27年 国鉄油須原線事蹟』
(昭和32年度完結)
嘉麻市より移管

この公文書に綴られている福岡県発行の県民向け広報冊子「総合開発の話」(昭和27年5月)をみると、陸上交通の整備として「川崎線の新設 古くから広く要望されているもので上山田―川崎―油須原間を短縮して奥嘉穂の石炭を荏田港に運ぶ最も効率の高い線」として、福岡県が、国土総合開発法制定(昭和25年3月施行)を機会に作成した「北九州特定地域の総合計画」の中で、重点的

に取り組む課題として取上げていることや油須原線は当初川崎線と称していたことが分かります。

また、昭和27年6月10日、知事から運輸大臣・通産大臣あての陳情書「国土総合開発法による北九州特定地域の計画樹立」では、当時の県としての筑豊炭田の現状把握の状況も垣間見ることができ

となるのであるが、この荏田港と石炭生産地帯とを最短距離に直結する鉄道が川崎線である。…(略)…川崎線に直接接する地帯における未開発鉱区は八百万坪、約三億屯の埋蔵量を有するものとされる。本鉄道の開通によって未開発炭田の開発が早急に行われ、既存炭田の出炭増と相俟って国家再建に重大な貢献をいたすであろうことが、当然予想される。」と書かれています。

昭和28年2月19日起案の「上山田川崎油須原間鉄道促進陳情について」では、町長から議員宛の「予定線編入無事通過の旨電報に接しましたので御通知：」や「委員会無事通過した」とともに、昭和28年2月18日付けの鉄道建設審議会会長から運輸大臣宛の答申内容が添付されています。熱望する路線が建設予定線として決定されるのか、知らせの電報を今か今かと待ち望んでいた様子が

想像されます。
建設予定線に決定後は、文書に付されている、「漆生上山田川崎油須原間鉄道建設促進委員会連合会会則」により、稲築・山田・荏田・川崎・添田・大任・赤の各市町村に設置されていた鉄道建設促進委員会をまとめた連合会が昭和28年5月14日発足したことが分かります。

ところが、昭和30年4月4日付の福岡県知事室企画局長から山田市長宛の文書によると「最近中央においても実施が問題化して来たので」とあり、建設が危ぶまれる状況になってきたことが分かります。これ以降、県と連合会は一体となつて政府や官庁及び議会関係者に上京し陳情していききました。昭和30年6月2日の県企画局長から市長宛の会議開催通知には「国鉄川崎線については、去る5月24日の閣議決定により、石炭鉱業合理化法案の実施と併行して建設を進めることになりまし

た」が「今後閣議決定どおり実現に移すまではなお政治的にも、事務的にも色々困難な問題もあり、地元としても今後具体的に様々の研究調査を進める必要がある」ので市に保有されている資料があれば会議に持参されたい旨が記されています。

陳情はその後も繰り返され、昭和30年4月現在の「鉄道建設審議会委員名簿」や「小委員会報告」も添付されています。この小委員会報告「油須原―漆生附近間鉄道の着手について」によると、鉄道審議会で小委員会に付託になり、昭和30年7月28日の委員会では慎重審議され、「この路線の建設は、これまでの新線とは別途に扱うべきである」という結論となりました。

「油須原、漆生附近の鉄道の建設は現下の石炭鉱業の合理化並びに炭鉱地帯失業者救済を必要とする事態に鑑み速やかに必要な調査を行ひ、その工事財源につき既定

建設線の工事進捗に影響を及ぼさないよう政府において失業対策費算別途の予算措置を講じて着手するを適当と認める。」という答申が出されたことがわかります。

これ以降、工事のための調査等に移行したようで、路線の通過位置に関する様々な会議資料や陳情書が綴られ、最後に昭和32年11月8日には、県知事や市長及び各議員を初めとして関連機関の職員や市民合わせて約300名が列席して、国鉄油須原線第二工区起工式が大々的に開催されたことが分かる受付名簿や御祝儀名簿、電報が添付されています。

工事起工後の紆余曲折を経て、昭和41年3月10日漆生駅から上山田駅、豊前川崎駅を結んで国鉄油須原線の初列車が走りました。この区間はのちに上山田線の一部とされましたが、昭和63年8月31日に廃止されバス路線に転換されました。